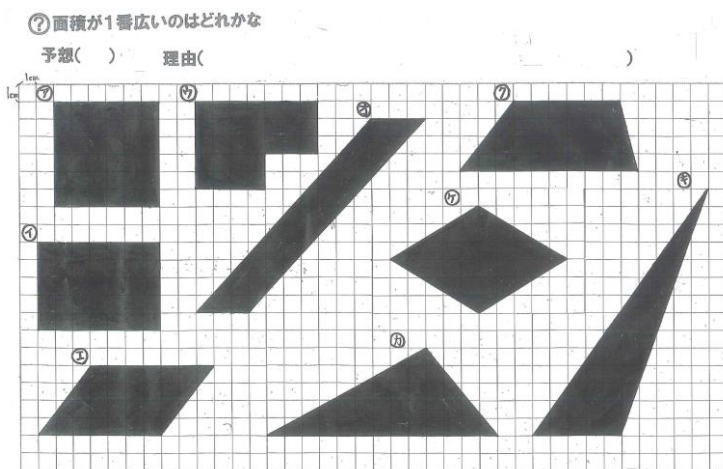


1 「といてみたい」「考えてみたい」～意欲を高める学習課題の提示

＜テーマ＞単元を通して課題を設定した取組（大河原町立大河原南小学校）

＜実践例＞第5学年「面積の求め方を考えよう」における課題設定の工夫

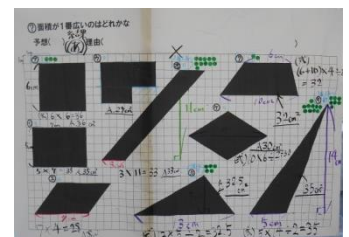
- 第1時で、図1のプリント「課題：面積が一番広いのはどれかな」を提示し、児童に予想させた。
- 面積の数値を近いものでそろえることで、見た目だけでは判断できないように工夫した。
- 初めに面積の求め方が既習の図形を振り返った後、新たな課題となる四角形や三角形の面積の求め方について、興味・関心を高めるようにした。
- 単元を通して、第1時の予想の解決に向けた学習を展開できるようにした。



- ア $6 \times 6 = 36$ (c m²)
- イ $5 \times 7 = 35$
- ウ $5 \times 7 - 2 \times 3 = 29$
- エ $7 \times 4 = 28$
- オ $3 \times 11 = 33$
- カ $13 \times 5 \div 2 = 32.5$
- キ $5 \times 14 \div 2 = 35$
- ク $(6 + 10) \times 4 \div 2 = 32$
- ケ $10 \times 6 \div 2 = 30$

（図1 単元を通して用いた図形のプリント）

- 公式を学んだ図形ごとに適用問題で解き（第2時にエ, 第3時にオ, 第5時にカ, 第6時にキ, 第8時にク, 第9時にケ）、結果が徐々に見えてくるようにした。
- プリントを拡大したものに、予想した児童の名前や結果を書き入れていき、教室に掲示することで意欲が継続するようにした（図2）。



（図2 掲示の様子）

（児童の反応）

- ・ 「予想が当たるかな」、「次の時間にはあの図形を調べるのかな」などと単元を通して意欲をもって取り組む姿が見られた。単元が進むにつれて、未習の図形に関しても、等積変形をしたり自分なりの考えをもったりして、予習して解いて結果を調べようとする姿も見られた。
- ・ 第1時では、「辺の長さが長いから」や「大きく見えるから」などの理由でクの台形やキの三角形の予想が多かったが、最後にひし形を学んで結果が分かり、アの正方形を選んでいた児童がほとんどいなかったことから、見た目だけで判断したり、何となくの広さにだまされたりせずに、計算して求めることの大切さ、算数のよさについて実感することができていた。